

ルツェルン音楽祭一人旅

昭和45年卒 鬼丸卓哉

今年こそはJALグローバルクラブに入会を果たすぞ、と一念発起したのは一昨年のことでした。現役時代に海外出張が多かった方は当たり前のように会員になれますが、私費ではなかなれません。グローバルクラブの会員になると空港のラウンジが無料で使えたり、専用窓口で待たずにチェックイン出来たりとなかなか美味しいステータスです。この年は他にも海外旅行の予定が有りひと頑張りすれば達成出来そうだと思います、一度行って見たかったスイスとルツェルン音楽祭に狙いを定めました。思い立ったのが6月初旬でチケットはとっくに発売されており、入手出来るかどうかの実現の決め手です。

何回かお願いしたことのある海外クラシック公演専門のチケット手配をしている「ムジークライゼン」に事前に調べたルツェルン音楽祭のスケジュールから8月後半の私の好きなプログラムが並んでいる3日間を選び、依頼したところ3～4日で全て最上席が確保可能との返信をもらい、あとは航空機、ホテルの手配で決定です。JAL便でルツェルンに行くにはドイツのフランクフルト迄JALで行き、フランクフルトからスイスのチューリッヒに乗り換えることになります。フランクフルトからチューリッヒはルフトハンザの時間が良いので予約しました。次にホテルの予約、ルツェルンの中心地のホテルは余り高級でなく良さそうなホテルは既に満室でした。暫く検索していると「ヴィラ・シュバイツァーホフ」が目にとまりました。「シュバイツァーホフ」はルツェルンでも高級で値段も高いのですが、こちらは中心地からちょっと離れていますが値段は半分位。地理勘も無いまま予約しました。

これで当初の目的は達せられますが、ルツェルンまで行くなら日中の空いた時間にアルプスにも行ってみたいと旅行ガイドを購入して、グリンデルワルト、インターラーケン迄の行き方、そこから登山列車でユングフラウ等に行く計画も立てました。ただ、英語もドイツ語も話せない私が、全て一人で出来るかどうかが大変不安でした。そこで航空券予約の際に見つけた「現地日本人ガイドのアルバイト＝ロコタビ」の利用を思いつきました。希望する観光地、時間(2時間とか半日、一日)でリーズナブルな費用で請け負ってくれます。チューリッヒ在住の日本人でこの旅行の期間受けてくれそうな方5～6名の中から唯一男性の方をお願いすることにしました。車を所有していて車で案内してくれるというのが決め手でした。当初はチューリッヒの空港で出迎えてもらい、チューリッヒと周辺を半日観光というプランで契約しましたが、その後のスケジュールも空いているとのことでルツェルンから一日アルプス観光も車でガイドをお願い出来ました。

出発日、成田空港で出国審査が完了し免税店をウロウロしていた時、腹に巻き付けたウエストポーチの開けっ放しの口から中身が全部床に散らばってしまいました。慌てて拾い集めてみたらパスポートと航空券が見当たりません。やばい！！と歩いた通路を辿ってみましたがありません。近くの案内所にパスポートが届けられてないか確認しましたが、届いてないとのこと。最悪行けなくなってしまう。どうしよう、心臓がバクバクしてます。出国審査の時にはあったので審査場に行って聞いたら職員の方が預かってくれていました。荷物検査が済んだところで、そのまま置いてきてしまったのでした。

フランクフルトで一泊し翌日ルフトハンザ午前便でチューリッヒへここでも失敗がありました。ルフトハンザの便ならどれも同じと思い何故か他の便の半値近いのを見つけ予約したのは良かったのですが、所謂LCCでした。フランクフルト空港でチェックインの際に職員が何か言っています。年配の女性職員の方が「まあいいわ」みたいに通してくれました。後で理解出来ました。LCCなので預け荷物の重量がかなりオーバーしているらしいのです。往きは見逃してくれました。チューリッヒに到着し無事ガイドのO氏と会えて車でスイスとドイツの国



境の名所ラインの滝やチューリッヒの市内等案内してくれ、夕方ルツェルンのホテルに到着。ルツェルン湖に面した一階がレストランで木造のちょっとした邸宅のようです。これがホテル？と不安。若くて素敵なマキシミアンと言う名の男性が出迎えてくれ、チェックイン。英語で説明してくれますが、半分も理解出来ません。予約時に朝食付きで無かったので、現地精算でも構わないと思っていましたが、「ここでは朝食の用意は無い、シュバイツァーホフの本館に行けば食べられる」とのこと。ここから歩いても15分でも行けない位離れています。悪い予感が的中です。安いには訳がある。最悪のケースを想定して日持ちするパンを少し持ってきたのでこれでしのぐことになりました。コーヒーだけはセルフサービスで無料でした。客室は2階で3つしかありません。ベッドルーム、リビングルーム、洗面ルームと3部屋と広く快適です。

午後7時の開演の前に食事と思い、一階のレストランで摂ることにしました。ルツェルン湖

に面した庭での食事は大変美味しくこれも後で知ったのですが、レストランでは有名だそうです。一時間もあれば食事の後タクシーで余裕があると思ったら料理がなかなか出てこない。やつと食べ終わりタクシーをお願いしましたが、いつまで待ってもタクシーは来ません。ここではタクシーは極めて少なくいつになるか判らないそうです。



途方にくれていたら先程のマキシミアンが自分の車で会場まで送ってあげよう、車を出してくれました。大変有難かったので、お礼に20フラン（2,500円位）差し上げたら喜んでくれました。開演にぎりぎり間に合いました。

今日の公演はB. ハイティンク指揮ヨーロッパ室内オーケストラ。ピアノはA. シフでベートーヴェンピアノ協奏曲第4番と交響曲第6番「田園」です。シフのピアノは良かったですが、「田園」では旅の疲れからか居眠りしてしまいました。会場からホテルまでバスが無料で乗れる筈ですが、色々な方面に出ていてどれに乗れば良いのか全く分かりません。雨も降り出して悩みましたが、歩いて帰ることにしました。30分位でホテルのある敷地の門に到着しました。ホテルの周辺は住宅が7～8件ひと塊になっていて外部からは簡単に侵入出来ないようになっていました。門も鍵がかかっていて入れません。周囲を歩いて回りましたが、入れるところが見つかりません。このまま一晩中立っている訳にもいかず、夜10時に一番手前にある家の呼び鈴を鳴らしました。2階の窓から「こんな遅い時間に何やってんだ！」みたいに住人が怒鳴っています。「ヴィラ・シュバイツァーホフに宿泊しているが入り方が判らない。助けて下さい」と平身低頭でお願いして門のカギを開けてもらいました。



今日は朝9時にガイドのOさんに迎えに来てもらいアルプス観光。生憎小雨模様の天候です。グリンデルワルトを經由してインターラーケンに到着。雲の合間から時々アイガーやユングフロウの山々と手前にある氷河が見えます。Oさんからここから登山列車に乗ってユングフロウヨッホに行くのが常道だがこの天気だと上に行

っても何も見えないから高い汽車賃払って勿体ないということでケーブルカーで周辺の景色

を楽しみました。上迄行けなかったのは残念でしたがここまで来れたのはOさんのおかげでした。ホテルに戻り昨晚の顛末をマキシミアンに話したところ部屋のキーがマスターキーになっていて門も建物も部屋も全て共通になっているとのこと。初日の説明を理解出来ていなかったようです。



3日目は夜のコンサート迄の間に午前中は街の名所を巡り、午後からワーグナーがコジマと結婚して暫く過ごしていた住居を訪ねることにしました。ホテルと同じルツェルン湖に面していますが、地図を見ると3~4kmあります。取敢えずルツェルン駅迄はバスで行きそこから湖畔沿いに歩くことにしました。湖畔と緑に囲まれた街から距離もあり大変静かな場所です。亡命中の仮住まいの別荘で、決して大きくない瀟洒な建物で周囲に調和しています。ここで息子のジークフリートが生まれ、コジマの誕生日のお祝いに密かに作曲した「ジークフリート牧歌」を螺旋階段に並んだ奏者に弾かせたのです。

そのまま夜のコンサート会場へ。KKLホールはルツェルン駅からすぐの現代的なホールですが、ホール前の広場の前はルツェルン湖で良い雰囲気です。この夜のコンサートはシェフのR・シャイー指揮のルツェルン祝祭管弦楽団でオールラヴェルプログラム。「ラ・ヴァルス」「ダフニスとクロエ第2組曲」最後に「ボレロ」輝かしい響きとボリューム感たっぷりの演奏に酔いしれました。フルートがやけに目立ちます。演奏後の拍手もフルートの奏者が立つと割れんばかり。帰国後に奏者のリストを見て納得。ジャック・ズーンと言ってソリストでも高い評価を得ている人でした。

4日目は日中ルツェルン湖の湖畔を散歩したりのんびり過ごして夜のコンサートへ。今日のプログラムはワーグナーのリエンツィ序曲とメインがブルックナーの交響曲第7番です。演奏は前夜と同じR・シャイー指揮ルツェルン祝祭管弦楽団。有名な曲ですが、私は今迄あまり聴いてないので、直前にCD購入して聴きこみました。ブルックナーの音楽にしては明るすぎ、派手な印象でしたが、輝かしく厚みのある響きでした。

あっという間に4日間が過ぎ帰国の日がきました。ルツェルンからチューリッヒ空港まで直通列車で移動。フランクフルトに到着し広い空港を右往左往してようやくJALカウンターに到着。ここまで来ると日本人の職員も居て、ラウンジでソーセージやビール、ワインを飲み食い

して心地がつかしました。海外での一人旅は言葉も半分位しか理解出来ず、緊張の連続でしたが面白い経験となりました。